

平成29年度 名古屋市立大学大学院人間文化研究科

博士前期課程（人間文化専攻）

学生募集要項（外国学生特別選抜（本学研究科外国人研究生対象の特別入試））

注 平成27年度入学試験から、外国語による筆記試験は行いませんが、新たに以下のように定める検定試験の級・スコア(以上)を取得していることを出願資格としました。

1 募集人員

人間文化専攻 若干名

2 出願資格 以下に記す両条件とも満たす者

- (1) 本学大学院人間文化研究科に外国人研究生として在学中の者
- (2) 次のいずれかの成績証明書が提出できる者

名 称	主 催 団 体	要求する級・スコア
① 日本語能力試験 (JLPT)	独立行政法人国際交流基金・ 公益財団法人日本国際教育支援協会	N2
② 日本留学試験 (EJU)「日本語」	独立行政法人日本学生支援機構	240点 (記述、読解、聴解・ 聴解の合計)

- ・各種検定試験の級・スコアは、出願期間締切日の2年前の年度の4月1日以降受験した(例えば、出願期間締切日が平成28年12月22日なら平成26年4月1日以降に受験した)ものを有効とします。日程に余裕をもって受験するように留意してください。
- ・成績証明書は原本の提出を原則としますが、試験実施団体により成績証明書の再発行をしていないなど、原本を提出できない場合には、受験票及び成績証明書のコピーを出願時に提出し、それぞれの原本を受験日に持参してください(ただしウェブサイトでの合格確認は認めません)。

3 出願期間及び方法

出願期間 平成28年12月 7日(水)～12月22日(木) [必着]

出願は郵送に限ります。窓口受付は行いません。

- ・本学所定の封筒に出願書類等を入れ、書留速達で郵送してください。期限までに到着しなかった場合は、受理しません。(期限内消印有効ではないので注意してください。)
- ・本学所定の封筒に入らない場合は、別の封筒を利用しても差し支えありません。その場合には、封筒の表面左下部分に「人間文化研究科博士前期課程(外国学生特別選抜)出願書類在中」と朱書きしてください。
- ・出願書類を受理したときは、受験票、受験案内を送付します。  
なお、平成29年1月6日(金)を過ぎても届かない場合は、[人間文化研究科担当(10ページ)]に照会してください。
- ・国外在住者が出願する場合は、国外からの郵送による出願書類の提出は認めませんので、必ず日本国内在住の代理人が出願手続を行ってください。本学からの通知も代理人あてに行います。  
なお、日本国籍を有しない者は、在留資格により出願できない場合もありますので注意してください。

4 出願書類等 注) 1

	書 類 等	摘 要
①	入 学 願 書 照 合 写 真 票 受 験 票 注) 2	<p>[本学所定用紙使用]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語で記載してください。ただし、氏名は漢字又は英文字により記載し、フリガナ欄にカタカナ表記してください。</li> <li>写真は、正面、上半身、無帽、カラー、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したものを貼付してください。</li> <li>受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。</li> <li>学歴は、初等教育（小学校相当）から記入し、大学等での研究生等、日本語学校又は専修学校等での在学歴があれば、記入してください。</li> </ul>
②	研究事項証明書	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学大学院人間文化研究科外国人研究生研究事項証明書を提出してください。（研究事項証明書の発行は、山の畑事務室に請求してください。）</li> </ul>
③	語学試験の成績証明書 注) 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>出願資格(2)を満たす成績証明書を提出してください。</li> <li>各種検定試験の級・スコアは、出願期間締切日の2年前の年度の4月1日以降受験したものを有効とします。</li> <li>成績証明書は原本の提出を原則としますが、試験実施団体により成績証明書の再発行をしていないなど、原本を提出できない場合には、受験票及び成績証明書のコピーを出願時に提出し、それぞれの原本を試験日に持参してください（ただしウェブサイトでの合格確認は認めません）。</li> </ul>
④	研 究 計 画 書 注) 2	<p>[本学所定用紙使用]</p> <p>日本語で作成してください。</p>
⑤	住 民 票 (外国籍の者のみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国籍の者で在留資格がある者は提出してください。</li> <li>在留資格期間が短期の者は、パスポートに押された日本の査証の写しを提出してください。</li> <li>国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出してください。</li> </ul> <p>※個人番号（マイナンバー）が省略された住民票を取得してください。取得した住民票に個人番号が記載されている場合は、油性ペンなどを使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出してください。</p>
⑥	入 学 検 定 料 等 (30,362円)	<p>振込依頼書（本学所定のもの）を使用し、必要事項を記入の上、30,362円（入学検定料30,000円+受験票等送付のための速達郵便料金362円）を添えて銀行などで振り込んでください。（ゆうちょ銀行[旧郵便局]では取り扱いはしません。またATM等は使用せず、窓口で振り込んでください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振込手数料は志願者本人負担となります。</li> <li>銀行などから受け取った「検定料納付証明書（B票）」を他の出願書類と一緒に提出してください。「振入金（兼手数料）受領書（A票）」は入学志願者が保管してください。</li> <li>原則として既納の入学検定料は返還しません。ただし、以下の場合は、納入された入学検定料を返還します。詳細は本学ホームページをご覧ください。ご不明な点がございましたら、財務課経理係（052-853-8013）へご連絡ください。</li> </ul> <p>①二重で振り込みをした場合 ②入学検定料等の振り込み後、出願書類を提出しなかった場合 (出願が受理されなかった場合も含む。)</p>
⑦	あて名用シール	<p>[本学所定用紙使用]</p> <p>返信先を明記してください。受験票等の送付及び可否の通知に使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。</p>

注) 1 提出された出願書類は返却しません。

注) 2 本研究科博士前期課程では、人間文化に関する7つの「課題研究科目」を設定しており、この表中①及び④には、これらの課題研究科目のうちから1科目を選択して、その科目名とその属する分野名を所定欄に記入してください。

注) 3 語学試験の成績証明書に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、改氏名したことを証明できる書類を合わせて提出してください。コピーは不可です。日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付してください。(原本のコピーに書き込んでも構いませんが、原本に直接書き込まないでください。)

## 5 入学者選抜期日及び方法

### (1) 期日、時間、科目等

試験期日	試験時間	試験科目
平成29年 2月 4日(土)	10:00~11:30 (90分)	小論文(筆記試験) 出題は、出願書類①及び④に記入した「課題研究科目」に関連するテーマとします。
	14:00~	口述試験(面接) 出願書類④の内容を中心に行います。 1人20分程度を予定しています。

### (2) 試験会場

名古屋市立大学滝子キャンパス1号館[人文社会学部棟]  
(名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1)  
詳細は受験票とともに案内を送付します。

## 6 合格発表 平成29年2月13日(月) 14:00

1号館[人文社会学部棟]1階入口付近に掲示するとともに、本人又は代理人あてに合否を通知します。

## 7 入学手続

(1) 手続期日(予定) 平成29年3月中旬

### (2) 手続方法

合格通知とあわせて、入学手続案内を本人又は代理人あて送付します。

### (3) 入学手続に必要な経費

ア 入学料(現行)	名古屋市住民等	232,000円
	その他の者	332,000円
イ 学生教育研究災害傷害保険料		1,750円

注1) 上記は平成28年度入学者の金額です。平成29年度については改めて通知します。

注2) 名古屋市住民等とは、①入学者又は②入学者の配偶者若しくは1親等の親族が入学の日において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

注3) 入学料等は入学手続時までに金融機関で納入してください。即納の納付金は、返還しません。

## 8 授業料

年額 535,800円(前期・後期分 各 267,900円)

注1) 授業料は、入学後、年2回(前期・後期)に分けて引落を実施します。

注2) 上記は平成28年度入学者の金額です。平成29年度については改めて通知します。また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用します。

注3) 必要な諸経費について別途徴収することがあります。

## 9 長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができる制度です。

- ・標準修業年限：博士前期課程は2年
- ・履修期間：標準修業年限に1年又は2年を加えた年数とする。
- ・授業料の額：標準修業年限期間の授業料総額を決定された履修期間で按分した額とする。（年額）

## 10 奨学金制度

日本学生支援機構等において大学院学生に対する貸与制度があります。

希望者については、本学において学業成績及び研究能力等を審査のうえ推薦手続をとります。

（外国籍の方は、申込資格のない場合があります。）

## 11 注意事項

- (1) 出願書類等が不備の場合は受理しません。
- (2) 「外国学生特別選抜」及び別に募集する「一般選抜」、「社会人特別選抜」及び「臨床心理コース」の出願資格を有する場合は、いずれか一つを選択して出願できますが、同時に重複して出願することはできません。
- (3) 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- (4) 出願書類等は返還しません。
- (5) 受信場所を変更した場合は、直ちに[人間文化研究科担当（10ページ）]に連絡してください。
- (6) 障害等により、受験上及び修学上特別な配慮を希望する者は、下記の期間に[人間文化研究科担当（10ページ）]に申し出てください。  
平成28年11月18日（金）～11月24日（木）
- (7) 二重学籍は原則禁止とします。

## 12 個人情報の取扱い

個人情報については、名古屋市個人情報保護条例に基づいて、次のとおり取り扱います。

### (1) 個人情報の利用

ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務（出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等）を行うために使用します。

イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を今後の入学者選抜及び大学院教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。（調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。）

ウ 入学者の個人情報については、教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

### (2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがあります。

## 13 緊急時における大学からのお知らせ

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容を変更する必要がある場合には、本学Webサイト及びスマホサイト等により周知しますので、受験前は特に注意してください。また受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を書くようにしてください。

- 本学Webサイト <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>
- 本学スマホサイト <http://telemail.jp/web/nagoya-cu>

# 大学院人間文化研究科（人間文化専攻）の概要

## 1 人材の養成に関する目的

[ディプロマ・ポリシー]

- ① 高度かつ先進的な国際水準の研究を行うことによって、次世代を担う若手研究者を育成し、また多様な経歴を持つ社会人の再教育を行うこと
- ② 人文社会諸科学の高度な知識と研究能力を涵養して、地域と国際社会に対応できる人材、現代社会の諸問題について指導的な役割を果たすことができる人材、グローバルな視点とローカルな視点とを併せもつ高度専門職業人や研究者を育成すること
- ③ 地域と連携した研究・教育を推進すること

上記目的を踏まえ、博士前期課程にあつては、本研究科に2年以上在学して、専門領域科目を18単位と課題研究科目を12単位の必要最低単位数を修得することで、専門領域に関する高度な知識を身に着けるとともに課題に即した研究能力を獲得し、さらに修士論文の審査および試験に合格することが学位授与の要件である。

なお修士論文の審査基準は、①問題設定とその解明の適切さ、②先行研究の検討の適切さ、③考察・論述の論理一貫性、④文章表現の分かりやすさ、等の判断要素を総合的に考慮し、「専門分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力」を有していることである。

[アドミッション・ポリシー]

### 《求める学生像》

今日の地球規模の課題および地域社会における諸課題は、技術的、物質的アプローチのみでは決して解決に至りません。価値観の多様性を前提としながら、人間の文化について深く掘り下げた研究が求められており、人間文化研究科の使命はまさにこうした研究を通じて、持続可能な社会の実現へ向けて貢献していくことにあります。

本研究科では人文社会諸科学の研究、特に、思想、歴史、文学、メディア、労働、人権、福祉、教育、心理などの分野諸課題について、専門的かつ複眼的に研究することができます。深い専門知識と幅広い教養を生かして、将来、研究者になりたい、あるいは地域社会に貢献したい、また国際社会で活躍したいという意欲を持つ人の入学を期待します。

- ・ 出身国と日本との文化的・社会的異同について鋭敏な感性をもち、それらを意識した研究課題に取り組みたいという意欲をもつ人
- ・ 研究者を目指した学術的修練を積みたい人、専門知識をもつ職業人としての学識を深めたい人
- ・ 出身国と日本との文化的および社会的な交流の発展に寄与したいと考える人

### 《修得しておくべき知識等の内容・水準》

- ・ 大学院で研究を進めるための基礎的な日本語能力を有していること。
- ・ 大学院での研究を進めるために十分な希望専攻分野の基礎的専門知識と論理的思考能力、文章作成能力を有していること。

2 専 攻 人間文化専攻（博士前期課程）

3 標準修業年限 2年

4 入学定員 25名（一般選抜、社会人特別選抜、臨床心理コースと合わせて）

## 5 授業科目

### (1) 課題研究科目

博士前期課程では、「課題研究科目」方式で学生指導が行われています。これは複数の教員と学生が共同で研究するという方式で、発表や討論を通じて研究を深めていくことができます。学生は、この方式を

通じて複数の教員から指導を受けることができます。

この科目は、本研究科のカリキュラムの骨格をなしています。課題研究科目は、次のような人間文化に関する現代的課題について、いずれか1つを2年間にわたって履修し、この履修を通して修士論文を仕上げることになります。

課題研究分野	課題研究科目
文化と共生	欧米の文化に関する研究 日本の文化に関する研究
社会と協働	都市社会システムに関する研究 地域づくりに関する研究 ジェンダー・人権・福祉に関する研究
人間の成長と発達	「こころ」の発達に関する研究 社会と教育に関する研究

## (2) 専門領域科目

専門領域科目は、共同研究科目である課題研究科目を基礎及び隣接関連領域から支援し、また展開推進させるための科目です。

専門領域科目として、平成28年度は次のような科目を開設しています。なお、平成29年度の授業科目は変更される場合があります。

### [文化系]

ドイツ思想研究A・B フランス思想研究A・B アメリカ文学研究A・B 英語学研究A・B  
日本語学研究A・B 日本文化研究A・B 日本歴史研究A・B 日本民俗研究A・B  
日本思想史研究A・B

### [社会系]

アメリカ政治外交研究A・B アジア史研究A・B イギリス社会経済史研究A・B 比較外交史研究A・B  
観光学研究A・B 地域文化研究A・B 地域活性化研究A・B NPO/NGO論研究A・B  
比較社会史研究A・B 経営科学研究A・B 現代社会情報・メディア研究A・B 都市社会学研究A・B  
労働と経営の社会学研究A・B 現代政治学研究A・B 現代地方自治研究A・B ジェンダー/セクシュアリティ研究A・B  
公法学研究A・B 社会福祉研究A・B 社会福祉援助技術研究A・B ライフコース研究A・B

### [人間系]

発達心理学研究A・B 社会心理学研究A・B 心理測定法研究A・B 臨床心理学研究A・B 認知神経心理学研究A・B  
教育学研究A・B 現代教育研究A・B 英語教育学研究A・B 比較教育学研究A・B ESD研究A・B  
芸術教育研究A・B 身体機能発達研究A・B 児童福祉研究A・B

### [関連講義・演習]

人間文化研究A・B・C・D・E

## 6 夜間及び土曜日の履修でも修了可能な時間割を編成

授業は昼間の他、平日の夜間の時間帯（18:00～19:30、19:40～21:10）及び土曜日（昼間帯のみ）にも開講します。

この昼夜開講制により、昼間のみの履修で修了できることはもとより、夜間及び土曜日の昼間のみの履修でも修了可能となります。

## 7 履修方法及び学位授与

2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（人間文化）の学位が授与されます。

## 8 取得できる免許

幼稚園教諭専修免許状

中学校教諭専修免許状（社会・英語）

高等学校教諭専修免許状（地理歴史・公民・英語）

※各免許状については、第一種免許所有が前提となります。

9 課題研究科目の概要及び担当教員

分野	授業科目 (課題研究科目)	内 容	担 当 教 員
文化と共生	欧米の文化に関する研究	<p>近代から現代までの欧米文化研究の基礎を学ぶ。英米文学、仏哲学、独思想、英米の歴史、東欧社会史、英語学といった多岐にわたる分野の基礎を学びながら、学際的なアプローチの基礎を身に付ける。そのうえで、外部世界と交流・衝突してきた欧米が多民族・多文化・多言語を内包する地域であることを認識し、従来の欧米中心主義をのり越える新たな視座から欧米文化を考察する。この批判的な欧米文化研究では、文化的越境、マイノリティの言語・文化、文化とジェンダー、異文化衝突、戦争と平和、ナショナリズムの問題などが扱われる。現代のグローバルな多文化主義的状況のなかで、どのようにすれば平和で公正な、そして持続可能な未来社会を築くことができるかを「文化」の視点から探究する。</p>	<p>川本 徹 (アメリカ文学) 寺田 元一 (フランス思想史) 日木 満 (英語学) 平田 雅己 (現代アメリカの政治) 別所 良美 (ドイツ哲学) 松本 佐保 (イギリス・イタリア近現代史) 山本 明代 (東欧及びアメリカの社会史・近代史)</p>
文化と共生	日本の文化に関する研究	<p>日本文化の普遍性と特殊性を考慮しながら、現代日本文化の由来と問題点を考え、持続可能な未来を展望する。具体的には、古代中世日本の仏教受容史、律令の成立と実態の解明、日本と異国との思想・文化交流史、日本の伝統文化言説の形成史、古典から近代にわたる日本文学の独自性と多様性の考察、言語活動を通して見た日本語の体系と変異の考察、沖縄の民俗・祭祀・芸能の分析、東アジアと日本との関係史の追究などから、日本文化と社会の基層にあるものの考察と近現代日本の多様な文化が共生する社会を多彩な視座からとらえなおす。</p> <p>上記各領域で、個々の学生の問題意識に沿った課題を、文献資料やフィールドワークから得たデータの読解と、教員の学生との討議を通じて検討していく。</p>	<p>阪井 芳貴 (日本民俗学) 土屋 有里子 (日本文学) 成田 徹男 (日本語学) ジェームズ・バスキン (日本思想史) 山田 敦 (日本植民地社会経済史) 吉田 一彦 (日本宗教史・日本古代史)</p>
社会と協働	都市社会システムに関する研究	<p>グローバル化とローカル化が交錯する現代社会にあつて、多元的な都市社会システムのあり方について理論的・実証的・政策的面からアプローチする。地方自治、都市問題、都市情報・メディア、エスニシティ・ジェンダー、都市産業、経営科学・意思決定などの分野・視点から、現代都市が解決すべきアクチュアルなテーマについて鋭く切り込み、その解決策を社会学・政治学など社会諸科学(数理科学的手法を含む)に基づいて構想・検討する。研究指導は各自の個別テーマを明確にしたうえで、各学問分野の方法・プログラムを習得し、学際的な指導の下に進めていく。自治体・行政関係の現役・OBの方、自治体職員志望の方、中部都市圏のあり方に関心のある方々が、自ら設定したテーマを社会科学的な研究の方法と専門知識を身につけたうえで、深く探究していくことができるよう指導を進めていく。</p>	<p>飯島 伸彦 (政治とメディアの社会学) 奥田 伸子 (イギリス社会経済史) 林 浩一郎 (都市社会学) 三浦 哲司 (現代地方自治研究) 宮下 さおり (労働社会学) 矢野 均 (意思決定論)</p>



<p>地域づくりに関する研究</p>	<p>本ユニットは、NGO/NPOや自治体、企業などで「地域づくり」に携わっている人、または、これから担い手になりたい人々が集う「場」である。グローバル化および国内の人口減を念頭に、まちづくり・むらおこし、ツーリズムなどの問題関心について実践的に研究する。対象・フィールドは、国内外、都市、農山村いずれも問わない。 本ユニットの特徴は、「人びとのくらし×フィールドワーク」である。社会・文化・生活・価値などの観点から、オーラル・ヒストリー、フィールドワークなどの調査手法をもちいて、地域生活や文化の継承についてアプローチする。 こうした活動を実践するための土台作りとして、さまざまな教育・研究メニューを用意している。地域づくりにとりくんでいる経験豊富な講師を招いて開催するセミナーを通じて議論を深め、多くの現場に出向くような実践的なフィールドワーク実習をおこなう。</p>	<p>市川 哲 (観光学) 榎木 美樹 (NPO/NGO論) 佐野 直子 (地域文化論) 浜本 篤史 (地域活性化論)</p>
<p>ジェンダー・人権・福祉に関する研究</p>	<p>現代の社会問題は多くの要因が複雑に絡み合って生じており、本課題研究では、こうした複雑な問題について、専門的な観点からとともに学際的な観点からも研究していくことを目標とする。この目標を実現するために、各自の関心にしがたって法学・政治学・社会学・社会福祉学の各学問領域の基本的な概念・方法を修得するとともに、これまで軽視されることが少なくなかった「ジェンダー」・「人権」・「福祉」という視点を共有して、理論的・歴史的・実証的に研究を進めていく。この方針のもと、教員・院生による集団的討議を重視しつつ、指導教員による個別指導によって自らの研究を行っていくことになる。</p>	<p>安藤 究 (家族社会学) 伊藤 恭彦 (政治学・規範理論研究) 菊地 夏野 (ジェンダー/セクシュアリティ研究) 小林 直三 (憲法・比較憲法) 樋澤 吉彦 (社会福祉援助技術研究) 吉村 公夫 (社会福祉学)</p>
<p>「こころ」の発達に関する研究</p>	<p>乳幼児期から老年期にわたって発達する人間の心理的機能は、感覚・知覚、認知、感情、パーソナリティ、社会性などと多岐にわたり、それら諸機能のそれぞれが生得的要因（遺伝・気質など）と環境要因（文化・社会など）とさまざまに関係している。このような「こころ」の仕組みや機能、およびそれらの発達的变化の解明を科学的・客観的な方法を基盤として行っていくことを目標とする。そのためには、適切な行動指標を決め、それらを測定する妥当性と信頼性の高い方法を開発することが必要になるので、この点も研究していく。</p>	<p>天谷 祐子 (発達心理学・教育心理学) 久保田 健市 (社会心理学) 鋤柄 増根 (心理測定) 中川 敦子 (認知神経心理学)</p>
<p>人間の成長と発達</p> <p>社会と教育に関する研究</p>	<p>教育は、どれほど個人的な行為であろうと、自らが存在している社会の文化、制度、政治、経済など社会の全面と深く結びつき、規定されざるを得ない側面をもつ。そしてまた、たとえば少子高齢化、グローバル化、高度情報化、長期経済不況などの社会変動に伴って、子育て不安や虐待、集団的いじめ、あるいは就職困難など古くからある問題が、現代的な新しい姿で顕在化することも少なくない。多文化教育などのように新たに生み出される教育要求を含め、広く教育の場に立ち現れるこうした多様で複雑な問題に、幼児期から成人までを視野に収めつつ、持続可能な社会の形成のため、それぞれの専門分野の具体的実践的な観点からアプローチし研究していく。</p>	<p>上田 敏丈 (保育・幼児教育学) 古賀 弘之 (音楽教育学) 佐々木 みゆき (英語教育学・第二言語習得論) 曾我 幸代 (ESD) 谷口 由希子 (児童家庭福祉論) 野中 壽子 (発育発達学) 原田 信之 (教育学・授業開発論) 山田 美香 (比較教育学・教育史)</p>

出願書類の郵送先・入学等に関する照会先

〒467-8601  
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
名古屋市立大学 事務局入試課 人間文化研究科担当  
電話 052-853-8021 FAX 052-841-7428

<入学試験の過去問題について>

入学試験（筆記試験）の過去問題を下記により入手することができます。

★ 本学窓口での配布

月曜日～金曜日（祝日を除く。）の9:00～17:00に山の畑事務室窓口〔滝子キャンパス1号館  
[人文社会学部棟]〕までお越しください。

★ 郵送による請求

市販の封筒の左側に朱書きで「人間文化研究科博士前期課程過去問題請求」と明記し、250円分の切手を貼った返信用封筒（角型2号＝縦33.2cm×横24cm）を同封し、以下のあて先にご請求ください。

なお、返信用封筒には、返信先の住所及び氏名をご記入ください。

過去問題に関する請求・照会先

〒467-8501  
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1  
名古屋市立大学 山の畑事務室 事務第二係  
電話 052-872-5808

【敷地内全面禁煙について】

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにも、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。